



岡山教会 堅信式の様子

小学生の部(370

広島教区は、創立百周年を迎えることができたことを神様に感謝し、新たな歩みに向けて準備することが

ます。

「これから」と

「これまで」の企画

8月の平和行事と、9月の閉年行事を迎えようとしています。また、ポルトガルのリスボンで8月上旬に開催されるワールド・ユース・デイに、今回、広島教区から10名の青年たちを派遣することに

教区創立百周年の祝いからの再スタート

広島教区 アレキシオ 白浜 満 司教

カトリック

広島教区報

No. 133

カトリック 広島司教区

発行責任者 広報担当 服部大介神父

「点訳版」あります。お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42 広島司教区内 TEL (082) 221-6017

通)、中高生の部(284通)合計1481通の作品が寄せられました。皆さんからの幅広い参加とご協力に感謝したいと思います。わたしたちは、今一度2020年から開始されている聖書の通読と写経のキャンペーンを思い起こしたいと思えます。閉年ミサの際に展示され、実際に使用される予定の聖書は、教区内の全小教区の協力によつて書き写されたものです。この聖書の通読と写経のキャンペーンは、教区創立百周年への準備としてはじめられましたが、今後も継続して行く予定です。そのため新たなパンフレットを作成して、皆さんにお配りします。また、終了者には証明書を発行していきます。神のことに親しみ生きるために、是非、チャレンジしていただければと思います。

2023 平和行事 主な行事予定

- 8/5 (土)
●12:40 ~ 13:25 広島被爆体験証言
●13:30 ~ 15:00 基調講演
●15:30 ~ 17:00 平和祈願ミサ
●18:30 ~ 祈りの集い
8/6 (日)
●8:00 ~ 9:00 原爆・すべての戦争犠牲者追悼ミサ
●11:15 ~ 13:15 特別講演
●18:00 ~ 原爆犠牲者のためのスピリチュアルコンサート

*その他の行事はお知らせやポスターをご覧ください

2023 平和行事
声をあげよう
核兵器で平和はつukれない!
8.5 Sat.
8.6 Sun.
8.9 Wed.
カトリック広島司教区・平和行事実行委員会

司教メッセージ
じゃけえのう

教区の動き・教区百年史
地区便り・海峡からの風・J-CARM広島便り
青少年・ひと粒

1〜2面
3面
4〜5面
6〜7面
8面

✿ 「信徒手帳」の発行

教区創立百周年を迎えたわたしたちが、もつとも大切にしたいことは、やはり、これまで受け継がれて来た「信仰」という霊的な遺産（恵み）を再認識して、感謝のうちに、それ自分の中で深め、周りの人々や次の世代の人々に伝えることです。そのため、教区創立百周年を機会に、これまで教区にはなかった「信徒手帳」を発行しました。すでに、皆さんのお手元に届いていると思います。これは、創立百周年を迎える準備として、教区が開催した第3回教区代表者会議（2020教区シノドス）から提出された

「信徒の心構えと日々の祈りをまとめた冊子を作ってはどうか」という要望に応えたものです。

カトリック教会が、第二バチカン公会議の精神と教えを活かして編纂した「カトリック教会のカテキズム」（1997年ラテン語規範版の日本語訳2002年）のテキストを引用し要

約しながら、信徒としての心構えを見つめ直し、神の助けを日々祈りながら隣人への奉仕に励むための手帳です。また、広島教区という「神の家族」としての共通認識を持つて歩むために、教区の歴史、特徴、申し合せ、教区固有の祈りなどを掲載しています。

小教区やいろいろなグループでの勉強会や分かち合いのために活用していただければ幸いです。また、それぞれの小教区で受洗の準備をしておられる洗礼志願者の方々にプレゼントして、入門講座の中で、この「信徒手帳」を紹介して一緒に学ぶ時間を、持っていたきたいと思えます。

もちろん手帳的なもので、入門講座のために必要なカテキズム（要理書）に代わるものではないことは言うまでもありません。受洗の記念品として生涯手帳に保管して、信仰生活を築いて行く「祈りの友」（ミニ祈祷書）にしていただければ幸いです。初めての試みであり、まだ十分な手帳ではありませんが、皆さん

からのご意見やご感想をもとに、今後、よりよいものに改善して行きたいと願っています。

✿ 「信徒手帳」の表紙画

「信徒手帳」の表紙画は、東京純心大学で美術を教えておられた純心聖母会の浦田カズ代シスターの作品で、旅人の祈り「平和の家族」というタイトルが付けられています。広島教区の創立百周年のお祝いに寄贈してくださいました。現在この原画は、広島カトリック会館4階の応接室に展示しています。この原画の中で、二人の大人が上を向いています。これは、神様を仰ぎ見ている姿で、「祈り」を表しています。

この二人の旅人は、マリヤとヨセフと理解することもできるのですが、地上を旅して歩んでいるわたしたち信者を表わしています。また、地上の人間の祈りに応えるかのように、父である神は、御子イエスと聖霊を与えてくださいました。男の子と鳩がそれを表しています。そして、背景にみえ



信徒手帳の表紙

✿ 「ともに歩む」ために

今年10月と来年10月の二期に分けて、第16回世界代表司教会議（世界シノドス）が、バチカンで開催されることとなっています。これまでその準備が2021年から順次、教区レベル、大陸レベルで開催されてきました。広島教区が教区創立百周年を迎える前に実施した、第3回教区代表者会議（教区シノドス）は、世界シノドスの教区レベルの準備と重なっていました。わたしたちは、すでに教区レベルで「ともに歩む」ための要約「10のテーマと30のチャレンジ」に取り組んでいます。そして、来年度

から、「ともに歩むあたたかさのある教会をめざそう」を、10年間の宣教司牧の長期目標として励んで行くこととなります。教区創立百周年の行事が一過性のイベントに終わることな



2012年1月に日本に
来られ、最後の4年間を廿
日市教会で過ごされた金
楹^{ヨンス}神父様が、この春韓国
に帰国されました。

神父様は人の喜ぶ顔を見
るのが大好き。コロナの
中、敬老のお祝いを兼ねて
献堂70周年のロゴ入りのマ
スクを手配して下さった時
にはみんなびつくり、もし
て大感激。

結婚講座を受ける方に、
「イエス様の最初の奇跡は
カナの婚宴でした。夫とな
る人待つつ花嫁の心。一日
に何度ミサをあげてもその
たびに緊張し、胸がドキド
キします。」と言われたの
が印象に残っています。指

く、これからの教区の歴史
を築いて行くための活力と
なりますように。
どうか、教区の皆さんの
お祈りとご協力を、今後と
もよろしくお願いいたしま
す。

の先まで美しい所作、無
駄のない動き、哲学的な
説教。「このままミサが終
わらないで続いたらいいの
に。」と思っていました。
自分を育ててくれた教会に
恩返しをしたい、とさわか
かに去って行かれた神父
様、60代になられる姿を見
ていたい、と思っていました。
きつとまたお目にかか
れますよね。本当にありが
とうございました。

廿日市教会 高井吉支子



(左) 金神父と故三末司教 (2016年5月30日撮影)

じゃけえのう

広島教区岡山教会出身の小
林と申します。この度3月に
福山で行われた中国プロック
カトリック高校生大会(以下
中プロ)に参加させていた
きました。

新型コロナウイルスの影響
で実に3年ぶりの会場開催と
のことでしたが、スタッフの
皆さんの準備のおかげで、懐
かしくて素敵な時間を過ごさ
せていただきました。

当日は講話の時間を頂き、
召命についての話をさせても
らいました。召命とは何なの
か、私自身が日々迷いながら
歩いているのですが、少しだ
け年上の先輩として、どのよ
うな問いをもち、何に迷い、
何を信頼し、どのように選
びながら今があるのか、話をさ
せてもらいました。

事前に、ほとんどの学生が
教会に通っているわけではな
いミッションスクールの学生
達だと聞いていたので、どこ
まで信仰や神さまの話をしよ
うかと悩みもしました。しか
し、みんな真剣に耳を傾けて

「じゃけえのう」とは広島弁で
「だからね!」という意味。

くださり、時代の変化を感じ
るとともに、まさにこのみん
なのために「福音」があり、
彼ら・彼女らが「福音」なの
だと教えられるようでした。
お祈りや交流会の時間もス
タッフ達の学生達に対する優
しさや思いやりに溢れてい

て、あの日あの場所で、私た
ちは確かに愛し合い、キリス
トとの豊かな交わりの時を経
験しました。きつと学生達に
とつても、ただの楽しい時間
で留まらない(コロナ禍を思
えば、それだけでも十分価値
はあると思うのですが)、大
切な「時」となったのではな
いかと思います。

私にとつてもそうだったよ
うに、若い頃に人と交わした
確かな喜びや受けた愛は、時
間と空間を超えて、その人の
人生を支えます。その温かな
思い出がきつと、時に身を隠
す逃れ場になり、心を守る砦
になることでしょうか。友人が
そこにいたこと、そしてイエ
スがともにいて結びつけてく
れたことを思い出すのであれ

ば、それは一層の力を与えて
くれるはずですよ。

古典に「ゆく河の流れは絶
えずして、しかももとの川に
あらず」とありますが、かつ
てあったものがそのままの形
で残り続けるということはな
く、組織や共同体は時代とと
もにその装いを変えるのは当
然なのでしよう。

今回参加させてもらった中
プロからはこれから先の小さ
な希望の灯を見たように思い
ますし、「教会にはまだ力が
あり、根底にあるものは多く
の人を温めることができる」
と感じさせられました。

私個人としても10年ぶりの
中プロに参加でき、自分の原
点を思い起こさせていただく
機会となりました。学生時代
からの大切な仲間である大西
神父やSr.橋本、益田なおさん
はじめ(懐かしい名前を挙げ
きれません)、ご準備いた
だき、お招きいただいた皆さ
ん、何より共にいてくれた学
生の皆さん、ほんとうにあり
がとうございました。皆さん
の詩く種が大きくなりな
りますように、お祈りしてい
ます。

教 区 の 動 き

2023年度

第1回広島司教区

宣教師評議会開催

去る6月10日(土)、2023年度第1回広島司教区宣教師評議会(以下、教区宣司評)が、既决定着したリモート会議形式と併用で開催された。白浜司教、司祭、修道者、信徒の全25人が出席した。メイン会場の広島カトリック会館多目的ホールには出席評議員の過半数の17人が集い、その他の評議員8人はリモート接続して予定通り会議を開始した。マスク着用が個人の判断となり、コロナ禍前の会議のように全員が一堂に会することは可能であるが、リモート会議形式の利点(移動の時間・費用削減)を有効活用するため、リモート会議形式はこれからも活用されることだろう。

教区宣司評は、白浜司教の挨拶と祈りに続いて次の報告事項から始まった報告は、まず教区の4つの優先

課題「召命促進」「教区共通力テキズム作成」「津和野の証し人列聖」「青少年育成」について、各委員会から現在の状況、課題、今後の予定が報告された。その中で「青少年育成委員会」からは、3月に3年ぶりに『中国ブロックカトリック高校生大会(中ブロ)』が福山暁の星学院で開催できたこと、『ワールドユースデーリスボン大会(8月)』に向けて準備中であること、『練成会』を8月に祇園教会で開催するために準備していることが報告された。

続いて、「教区創立百周年記念行事実行委員会」から、4月29日に行われた『山口サビエル記念聖堂献堂二十五周年記念ミサと講演会』の報告、子ども企画『イエスさまマリアさまへのがみ』募集は3月末に締め切ったが、多くの応募があり、今夏、優秀作品を表彰する予定であること、9月18日『閉年ミサ』の全体スケジュールが示された。

更に続いて、平和の使徒

平和の使徒となろう



平和の使徒推進本部

推進本部の傘下で司教教書の具体的推進をサポートする「シノドス対応調整チーム」から、現在までの活動報告、司教教書『10のテーマ・30のチャレンジ』の各項目の進捗状況についての報告、新たに具体的な検討を行うチーム「教区全施設

維持管理・共済制度検討チーム」からの報告、更に新たに活動を開始したチーム「広島司教区情報技術(IT)推進チーム」からの報告に続いた。

報告事項の最後に、白浜司教から「世界シノドス」の現在の状況について報告があった。

議題については、次の議案に関する説明と出席評議員による決議が行われた。議題は、まず白浜司教から2023年度のチャレンジ「わたしの召命とあかし」について、冊子「『わたしの召命』を考えるために」を活用して過去の10年間を振り返ってほしい、とのご要望と今年度のチャレンジを教区で共有する機会として11月23日に「教区ひろば」を開催することが示された。それに続いて平和の使徒推進本部から、「教区ひろば」の具体的なスケジュール(案)が提案され、決議を行い全員賛成により、提案通りのスケジュールで開催することになった。

ミサ(ミサ中に金銀祝セレモニー有り) 次の議題は、白浜司教から『信徒手帳』の完成報告と『種々の祈り』小冊子の改訂版発行の必要性について、評議員に意見を求めた。『信徒手帳』は一万部印刷した。今後、新たに受洗された方には必ず渡して欲しいとのこと。『種々の祈り』小冊子については、携帯の便利さから、祈りを改訂して再発行してはどうかと提案され、決議を行い全員賛成により改訂版を発行することになった。

「教区ひろば」 スケジュール
日時: 11月23日(木・祝) 13時から
場所: 世界平和記念聖堂
内容: 「わたしの召命とあかし」についての報告
会・青年活動企画室報告・世界シノドス/教区シノドス報告・派遣

続く議題は、司教教書『10のテーマ・30のチャレンジ』のひとつの項目に沿った「組織の見える化」『ともに歩む広島教区の組織』について、評議員に意見を求めた。白浜司教からは、特に各地区に対して、組織の簡素化や効率化を図ると共に、地区レベルの「委員会」「チーム」等は、必ず規約を作り、教区の認可を受けてほしいと要望された。

教区宣司評の終盤は、各地区・協働体・修道女連

盟・平和の使徒推進本部
社会司牧デスク・平和行
事実行委員会からの報告
があった。

以上のことが話し合わ
れ、祈りと祝福のうちに
3時間の教区宣司評を開
会した。

なお、次回(2023
年度第2回)教区宣司評
は、12月9日に開催予
定。

本記事に関するご質問
などは平和の使徒推進本
部まで。

広島教区子どもと女性の人権擁護デスク

カトリック広島司教区セクシュアル・ハラスメ
ント相談窓口より、現在の電話受付日時につ
まましてお知らせいたします。

電話：080-9795-3676

受付時間：木曜日 9:00～16:00 (祝日を除く)

※上記は電話相談窓口として待機している受付
時間です。木曜日以外の日にも、予約により、
電話や面談での相談が可能です。留守番電話
にメッセージを残していただけましたら、折
り返しご連絡いたします。

※下記のメールでも承ります。

メールアドレス：

desk-hiroshima@catholic.hiroshima.jp

教区創立100周年閉年ミサご案内

9月18日(月・祝)教区の日
11:00～12:30 講演会「これからの福音宣教(歴史を振り返って)」
川村 信三 神父さま(イエズス会)
12:50～15:00 教区創立100周年閉年ミサ
公式祈願：種々の機会のみさ
「福音宣教のために」(国際ミサ)

※聖書写経ルーの企画と個人の写経企画の成果を展示して紹介します。
※ことばの典礼にて写経された聖書を用いて朗読をします。
※現在のところ、人数制限は考えておりません。

広島教区百年の

歩みをたどる(六)

昔聞いた活動、今も見られ
る活動の中から幾つかご紹
介。

(1) 維持費(月定献金)

戦時中の43年、岡山教会で
は維持費を全信徒約380人
の内、100世帯140人が
月161円程献金。一人約
1.6%(1円10銭程)の献金
拠出となっている。

戦時中の苦難の時代に当時
の信徒たちが、どのような思
いで献金したのだろうか。

(2) 隣組(地区会)

戦後の5年程で信徒が3倍
近くに増加した岡山では、信
徒の動向把握や、司祭の意向
伝達に苦勞をすする事態に。淳
心会司牧の先輩(姫路教会)
の隣組組織に目を向け、全信
徒を地区に落とし、17の地区
に分けた。隣組長を委嘱し、
隣組長会を結成した。岡山の
隣組組織の始まりである。'51

(昭和26)年10月の話。

(3) レジオ・マリエ(聖母 の軍団)

この活動は百年
程前に始まった世
界的な活動で、国
内では長崎で初め
て誕生し、その後
各地に広まった様
である。

教区内では'55
(昭和30)年から岡山で始ま
り30余年続けられた。また2
年後には三篠でも始まり10数
年活動。その他の地でも行わ
れていた。

名称は、聖母に忠誠を誓つ
た軍団の意味で、教会の各種
行事の裏方として奉仕。信徒
使徒職の先兵として豊かな実
りをもたらした誇るべき存
在。

資料：以上、岡山教会百年史
(4) 一粒会(司祭養成支
援)

国内的には戦前、'38年の
東京教区が最初と思われ、そ
の後横浜を始め各地で始まっ
た様である。'55の教会報に
「1日1円の献金を」との呼
掛けがあり、教区としては戦
後数年での開始と思われる。
その後教区で小神学生養成費
確保の必要を生じ、'88に家族
献金を個人単位に改め再発足
した。資料：岡山教会百年史
その他

(5) 共助組合(信徒向け小 口金融)

国内では'60年代初頭に活動
が開始され、各地の教会で小
口資金の融資が行われた。'60
年代後半以降、山口・彦島・
岡山等で活動が始まり、祇園
では'13迄行われた。
銀行より手続きが簡易で金
利も安く、信徒にとつて重宝
された。法の規制により、'13
年初めに全国的な活動は終了
した。資料：山口・下関・岡
山史(教区百年史編纂委)

幟町・聖パウロ書院 開店時間のお知らせ

- 平日
10:30～12:30
13:30～16:30
- 日曜日
10:30(9:30ミサ後)～15:00
- 定休日
火曜日・水曜日



地区便り

山口島根地区

*4年ぶりの乙女峠まつり

コロナも終息し、4年ぶりに乙女峠まつりを再開することができました。多くの方々の助けをいただき成し遂げられたことを感謝いたします。

津和野カトリック教会から乙女峠までの道程を約千人の信者の皆さんが祈りと共に行列する姿は素晴らしい光景です。乙女峠に流配された人々は、どのような思いで廿日市から乙女峠まで歩かれたのだろうかという信仰心に思いを馳せま

す。乙女峠37人の信仰を忘れることなく、その意志を受け継ぎ、列聖されますように祈っています。



中央、ミサの主司をされる前田万葉枢機卿（大阪教区長）、その右隣、白浜満司教。司祭の他広島教区だけでなく各地から多くの司祭が集まり共にミサが捧げられた。

岡山鳥取地区

*さあ、動き出します

□青年連合チーム

今年度から岡山鳥取青年連合の代表になりました。齋藤です。今まで新型コロナウイルスの影響で、活動に制限があり、オンライン上での分かち合いなどしかできませんでした。これから少しずつ、以前のように対面で、活発な活動をしていきたいと思っています。

コロナの間に洗礼を受け、新たに青年のメンバーに加わった人もいますが、まだ直接会ったことのない人もいますので、そのメンバーで、B B Qなど、食事を交えて今後の青年活動について話し合いたいと思います。

また、コロナ前から、ノートルダム清心女子大学のカトリック研究会の学生の方々に教会にお招きして、交流を行いたいという計画をしていました。随分間が空いてしまいました。連絡をとり交流の場を持ちたいと思います。

□平和推進チーム

聖職者による核兵器反対の平和行動ドキュメントの映画「シスターと神父と爆弾」を希望小教区で巡回映写会を実施します。

□養成チーム

5月20日から臨時の奉仕者養成講座開催（全6回） テーマ「信徒の奉仕職」共に歩み 共に参加し 共に宣教しよう今年は無事に対面講座となりました。

68 海峡からの風

下関労働教育センターだより

3月の終わりに、フランスのルルドで、カトリック労働者運動の総会があり、日本アセオの国際担当の信者さんに同伴して、参加しました。宿泊している丘の上にある施設から20分ほど降りていくとルルドの泉があるという恵まれた場所です。時間は、出会いにも恵まれていました。カトリック労働者運動の輝ける特徴の一つは、自分の日々の振り返りの中に、社会の中にある光と闇を見るところ。次元を含ませながら、そこから判断し、社会に対しての行動を起していくということにあります。ですから、どのように社会の弱者に連帯し、平和を作っていくのかということが一貫したテーマとしてあり、そこに集まっている人たちから学ぶことも多くあります。ドイツ人の神父さんでクリストフさんという方がいらっしやいました。彼は、「橋になりたい」という言葉を何度も分かち合ってくれました。そして、食事で隣に座った時は、聖クリストファーが、幼いイエスを背負って川の向こう岸へと渡ったように、自分の名前の通り、人々を向こう岸へと渡していく使命があるのだという話をしてくれました。心がに残っています。

昨年11月に白浜司教さまが、4月から「ロクスひよりやま」という通称になった旧下関労働教育センターで50周年を記念するミサをして下さった時に、このセンターは、「出会いの文化を育む使命を担っていただく」と言ってくれました。それから私にとっては「出会い」の場所（ロクス）を作っていくということの使命を胸に刻んでいます。そして、点である出会いが線で結びついて実りとなるということを体験してきました。フランスの旅から帰ってきて、感動的なことがありました。日韓の青年たちの交流をコロナ禍の中でオンラインで続けてきたのですが、韓国の青年たちに同伴している友人のカン・ジュソク神父さんと、韓国のウイジョンブ教区の司教、そして神父さんが働いているカトリック東北アジア平和研究所に關わる神父と信者さんたちのグループが下関を訪れ、朝鮮学校を訪ね、宇部の長生炭鉱跡で祈り、広島の世界平和記念館で白浜司教さまとミサを捧げました。最後に白浜司教さまが、日本人として深くみなさんにお詫びしたいとおっしゃられたことは、韓国からの平和巡礼者たちの心を打ちました。そして、核廃絶のために、韓国、アメリカ、日本の司教たちが心をあわせてメッセージを発していきましようという励ましは、どれだけ大きな慰めとなったことでしょうか。その場にいられたことに大きな喜びを感じながら、出会いと、向こう岸への橋となっていくという使命をより深く生きていきたいと思えます。（中井淳神父）

広島地区

*2023年度 教区・

広島地区召命祈りの集い

今年、「広島地区召命祈りの集い」は5月、「教区召命合同祈りの集い」は10月に広島地区で行われま
す。昨年はコロナ禍でした
が、「教区召命合同祈りの
集い」は、山口島根地区担
当で徳山教会において開催
され、「広島地区召命祈り
の集い」は、祇園教会にお
いて開催することができ、
司祭と信徒合わせて100
名ほどの参加がありました。

今年の「教区召命合同祈りの集い」は広島地区の担当となり10月20日(金) 幟町教会で開催される予定です。

毎年、各教会が一致し同日程で地区の集いを計画していましたが、G7広島サミット開催の影響を考慮し、各教会、別日程で集う事となりました。

翠町教会では、5月12日に開催され、召命のための祈り、ロザリオ、ミサに続き、主任司祭の福田神父様ご自身の召命物語を話してくださいました。

皆が一つに集い「召命」

という同じ想いで祈る事は大きな喜びでした。

召命促進委員 浜村博美

*広島司教区創立百周年記念 アレキシオ杯ボウリング大会

来る9月2日(土)に子ども達を対象とした広島地区教会学校リーダー会主催「アレキシオ杯ボウリング大会」を開催いたします。地区の子ども達で一堂に会して白浜司教様と一緒に広島教区創立百周年をお祝いしましょう。ボウリング大会の後、翠町教会訪問も企画しております。申込締切は8月7日です。

広島地区教会学校リーダー会主催
ボウリング大会
アレキシオ杯
広島教区創立100周年記念

日時 9月2日(土) 10時
9時30分受付開始

会場 広電ボウル
中区平野町10-16 無料駐車場あり

参加費 (ボウリング代・貸し靴代・軽食代込み)

幼児~中学生	500円
高校生	1,100円
満18歳以上 (高3を除く)	実費 3,000円程度

表彰式 & 軽食後
カトリック翠町教会へ
訪問しませう

終了予定 15時

お問い合わせ 藤本 ☎090-5708-5867

日時 9月2日(土) 10時
(集合時間は9:30)

場所 広電ボウル・翠町教会

対象 幼児・中学生以上(高校生以上は参加可)

参加費 中学生以下500円 高校生1100円 (満18歳以上は実費)

JICA R M 広島 便り



子供たちに日本語教育を

外国籍の家庭において、子どもたちの日本語教育が多くの家庭で懸念されています。この状況改善に少しでも役立ちたいと山口サビエル教会の貞方さんを中心に、山口県立大の学生さん、海外青年協力隊のOB、教会信徒の有志の方々が、子ども達へ日本語教育をはじめられました。ザビエルキッズルームと言う名前、現在6か国の子ども

子供たちが日本語教育を
外国籍の家庭において、
子どもたちの日本語教育が
多くの家庭で懸念されてい
ます。この状況改善に少し
でも役立ちたいと山口サビ
エル教会の貞方さんを中心
に、山口県立大の学生さん
、海外青年協力隊のOB、
教会信徒の有志の方々が、
子ども達へ日本語教育を
をはじめられました。ザビ
エルキッズルームと言う名
前で、現在6か国の子ども

たちが勉強しています。外川神父も参加されています。

日曜日の英語ミサが倍増

広島からバート神父に毎月山口へ来ていただいていた英語ミサが各地で開かれるようになりました。山口地区長とヴィタリ神父が徳山、下松、防府で毎月英語ミサを開いて頂いています。その分バート神父様には島根県の益田・浜田へ行っていただけのようになり今まで長い間ミサに与れなかつた地元のリピン人の方は大喜びです。次は岩国地区からの要請に答えたいと思います。(JICA R M 山口島根地区担当 藤本)

聖書通読写経キャンペーン 完了者紹介 (敬称略)

- ◆教区内巡礼完了者◆
No.050 藤本 道夫
祇園教会
- ◆新約聖書写経を完了された方◆
No.035 高本 壽子
祇園教会
No.036 古川恵美子
祇園教会
- ◆旧約聖書写経を完了された方◆
(聖書全巻完了)
No.018 高本 壽子
祇園教会
No.019 古川恵美子
祇園教会

青少年の活動

ワールドユースデー

巡礼に向けて

いつも青年たちのために、お祈りとご支援をありがとうございます。どうぞございます。

今夏の青年たちの一大トピックは、なんとといっても



イエスと共に歩きながら学ぶ

細江教会

グエン・ヴァン・トアン 神父

ベトナムから参りましたイエズス会の司祭のトアンです。2021年9月4日に司祭に叙階されました。今は細江教会の助任司祭です。

今まで歩んで来た召命の道に支えと助けとなってきた聖書箇所の一つを分かち合いたいと思います。それは復活節の間に読まれたエマオへの旅している2人の弟子の場面



ワールドユースデー（以下、WYD）。コロナによる1年の開催延期を経て、溜まりに溜まった全世界の若者たちの熱がリスボンに集結します。広島教区では準備会の一環として、教区創立百周年記念グッズの販売会に回らせていただきました。どの

小教区へお邪魔しても暖かく迎えていただき、いつだって応援の言葉をかけてもらったことは、益々彼らのWYDへの思いを耕すものとなりましたし、神さまとの出会いの体験のはじまりともなったのではと感じます。

青年たちが小教区へ伺い

です（ルカ24：13-35）。この場面では、エマオへの道を歩きながら、復活のイエスと対話していたが、「イエスだと分からなかった状態」から「イエスだと悟った状態」への二人の弟子の記述が書かれています。イエスが一緒にパンを裂いている間、「二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなつた」。イエスの姿が見えなくても、彼らはイエスを認識するようになりました。それから、彼らは道を歩いていた時のことを振り

返って、すべてがどのように始まったのかを確認し、すなわち、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してください」と私たちの心は燃えていたのではないかと話し合ったのです。心が燃えているという心の動きに気づくことによって、彼らは十字架にかけられて死んでしまったイエスが今生きておられ、そして彼らと共に道を歩いていた時に導いてくださる方だと信じるようになりました。

歩きながら復活のイエスと話し合ったが、イエスだとは気づかなかつた二人の弟子と同じように、私も日常生活の中で、様々な出来事や出会

迎え入れていただく光景は、今回のWYD大会テーマ「マリアは出かけて、急いで山里に向かった」（ルカ1：39）とも重なるように、広島教区の青年たちは準備から素晴らしい時間を過ごさせていただいたなと、皆さまに本当に感謝しています。

出発まで、いよいよ残り数日となりました。どうか皆無事に帰ってくださることが出来ますように、引き続きお祈りいただけると幸いです。

（青年活動企画室 益田）



→教区創立百周年記念グッズの販売会の様子



カープの声出し応援が戻って数ヶ月。ソーシャルディスタンスの文字を見ることがも無くなった。3年前の日常が戻ってきている。ところで主日のミサにも信徒は戻っているだろうか？声出し応援で戻さねば。

（ぎん）